

【メモリアルセッション】

野尻武敏先生※

——人と学問——

Professor Taketoshi Nojiri

—Person and study—

福田敏浩 (滋賀大学名誉教授)

Toshihiro Fukuda, Professor emeritus, Shiga University

1. はじめに

野尻武敏先生は現在のわが国の経済学界ではユニークな社会経済学者であった。先生はカトリック社会論の立場を取っておられたからである。カトリック社会論の研究は1883年にドイツのミュンスター大学のカトリック神学部にカトリック社会科学講座が開設されてから盛んになった。

先生の研究分野は経済政策原理、人間論、社会経済体制論の三つである。以下この順にそれぞれについて見ていくことにしよう。

2. 人物

野尻先生の容姿は人格者らしく実に端正であった。

先生の人物像を論語をもって表現すると次のようになる。

「子曰ク、徳孤ナラズ必ズ隣アリ」高德の師のもとにはいつも人が集まって来る。

神戸大学経済学部での先生の経済政策原理の講義は人気があり、毎回満席となるほど多くの学生が聴講した。学外の「神戸市民大学」や「新しい日本を考える兵庫フォーラム」などでの講演には、いつも先生を慕って多数の市民が参加していた。

「子曰ク、一以テ之ヲ貫ク」ワシは一本通して来たぞ。

野尻先生は一貫してカトリック社会論の立場から社会経済学の研究を続けてこられた。

3. 経済政策原理

野尻説の特徴は基本目的の設定にある。その結論だけを示しておく下表のようになる。

※ 2019年7月21日受理。

経済過程	基本目的		
生産	最良の 社会経済生産性 の実現	効率	経済の均衡成長
分配	最良の 所得分配 の達成	公正	所得の公正分配
消費	最良の 国民生活基礎 の確保	福祉	生活の安定向上

4. 人間論

人間はミクロコスモス(microcosmos)と言われてきた。これは、人間はおのおのの内にこの世界に存在する存在諸層のすべてを包摂しているということを意味する。これを重層構造の形で示すと下表のようになる。

精神
動物
有機体
物体

精神：人間のみが内有する心の働きである。

動物：自ら動き生殖する生物である。

有機体：命を持ち栄養機能を有する生命体である。

物体：物理学の諸法則をまぬがれることができない無機体である。

人間はすべての存在諸層を内有するという意味でもっとも豊かな存在であり、上表から明らかなように一段と高みにある存在である。

ところが、生物学的に見ると人間は他の存在よりも弱く貧しい存在である。生誕の時には全く自足性を欠いており、それを身に着けるには長い年月を要する。精神に至ってはついに完成ということはない。人間は未完のままで生まれ未完のままで世を去る。ドイツの人間学者アーノルド・ゲーレン(Arnold Gehlen)はそのような人間を欠陥生物(または未完生物)と呼んだ。

5. 社会経済体制論

今からおよそ250年前の西欧では一連の革命が勃発し、市民社会が成立した。市民が経済の主役となり、市場での取引が活発化し、経済主義の時代が到来した。その中からレッセフェールの自由資本主義が登場した。この体制のもとで市場での財やサービスの取引が活発化し、生産力が急上昇し、それに伴い人々の所得水準も急上昇した。資本主義を批判してやまなかったマルクスでさえ、その『共産党宣言』の中で「ブルジョワ社会は100年にも満たないうちに過去のすべての世代を合計したよりも大量の、また大規模な生産諸力を創出した」と述べている。

しかしその反面で政府の経済への不干渉はやがて景気変動や恐慌をもたらし、失業や貧困化などの

社会問題を引き起こした。これらの問題の解決のために政府の経済への干渉が開始され、こうして19世紀に入る前後からの事後的・局所的干渉を柱とする干渉主義の時代を経て、1930年代半ば以降ケインズ政策に基づく事前的・全面的なマクロ経済政策によって市場価格メカニズムはようやく安定した。

こうして資本主義は、経済プロセスを支える制度的枠組みへの事前的・全面的干渉を柱とする誘導資本主義に転換し、今日に至っている。第二次世界大戦後にソ連・東欧諸国に共産主義が登場したが、先生によればこの体制も資本主義と同様の経済主義の体制であった。

6. 第三の道

野尻先生はカトリック社会論の立場から経済主義に立脚した資本主義と共産主義とともに退け、第三の道として市場経済部門、社会経済部門および公共経済部門から構成される社会経済体制を主張してこられた。これらの部門のうち先生が重視したのは社会経済部門であるが、これはゲゼルシャフト(利益社会)的かつゲマインシャフト(共同社会)的性質を持つ。その中核を成すのは協同組合である。先生によれば協同組合は人々のヨコの連携であり、互いに助け合うコミュニティ(人々のふれあいの場)である。そのような協同組合の柱は、運営の民主主義、非営利事業、協同の学習・教育活動の三つである。

わが国には商品購買、医療、共済、住宅等の生活協同組合や農・林・漁業などの産業協同組合があるが、これらのうち先生が重視したのは商品購買を核とする生活協同組合である。

先生はカトリック社会論の立場から生活協同組合を支持したばかりでなく、その運営にも参加されている。たとえば神戸市にある「生活協同組合コープこうべ」の理事および同学苑長として経営に携わり、またスイスのジュネーブに本部がある国際協同組合同盟・訓練・教育委員会(International Co-Operative Alliance, Training and Educational Committee)の副議長として活躍された。

野尻武敏先生の主要業績

①主要著作

経済政策原理(1973年)、選択の時代(1980年)、人間社会の基礎(1983年)、第三の道(1997年)、転換期の政治経済倫理序説(2006年)

②受賞等

オーストリア第一級学芸功労十字章(1998年)、兵庫県社会賞(1997年)、勲三等旭日中綬賞(2001年)、兵庫県功労賞(2004年)、1984年にローマ教皇ヨハネパウロ二世によって教皇庁内に設置された教皇庁社会科学学士院の会員(1994年～)

③学会

日本経済政策学会会長(1992年～1995年)、経済社会学会会長(1995年～1998年)